

函館市の都市景観形成地域に指定されている函館山西麓の幸坂沿いに佇むHOTEL白林HAKODATEは、旧ロシア領事館を再生して2025年7月にオープンしたスモールラグジュアリーホテル。夜間景観の演出と来訪されるお客さまを歓迎する気持ちを込めて、LED投光器によるライトアップを実施しています。

1908年に竣工した旧ロシア領事館は、日本に現存する唯一の帝政ロシア期の在外公館建築であり、開港の街、函館の異国情緒を彩る歴史的建築物です。1965年からは函館市の施設として供用されていましたが1996年に閉鎖。約30年の時を経て宿泊施設として再生されることとなり、2025年、ラグジュアリーなヒストリカルホテル「HOTEL白林HAKODATE」として開業しました。



【物件概要】
所在地：北海道函館市船見町17-3
構造・規模：領事館棟／木骨レンガ造（鉄骨耐震補強）、地上2階建
ウェルネス棟／鉄筋コンクリート造、地上2階建
敷地面積：3,735.22㎡
建築面積：領事館棟／429.46㎡、ウェルネス棟／718.53㎡
施主：㈱ソヴリン
施工：電気／㈱電気企画工業
竣工：2025年2月



領事館棟を正面右コーナー付近から望む
エントランス側からメインダイニング側にかけて設置した計9台のLED投光器が赤レンガと白い隅石のコントラストが美しい領事館を照明演出

重厚感ある建築様式の旧ロシア領事館を、計9台のLED投光器で夜間ライトアップ。

冬木立に囲まれた旧ロシア領事館の美しさから「白林」の名を付けられた「HOTEL 白林 HAKODATE」は、リノベーションされた領事館棟と、新たに増築されたウェルネス棟の2棟からなり、歴史的建築物で特別な時間を過ごすことができる全6室スイートルームの隠れ家的なラグジュアリーホテルです。
今回ライトアップされた領事館棟は、百年以上前にドイツ人建築家により設計された重厚感のある建築様式で、構造は木骨レンガ造の2階建て、外観意匠は赤レンガの外壁に白い隅石のコントラストが美しい景観

性が重視されたもの。ホテルとしてのリノベーションでは、外観をそのまま生かしながら、新しい機能や素材、意匠が取り入れられ、耐震補強も施されました。
ライトアップの対象は、エントランス側壁面とメインダイニング側壁面で、採用されたLED投光器は250W形メタルハライドランプ器具相当タイプ計9台。17～23時の点灯を基本とし、落ち着いた電球色の光に照らされた旧ロシア領事館のクラシカルな姿が、夜の閑静な住宅街で存在を主張し、遠く函館中心の観光スポットであるともえ橋からも望むことができます。



坂上からのライトアップ風景 函館港の夜景を背景に幸坂の上手から領事館棟を望む



正面左からのライトアップ風景



正面からのライトアップ風景



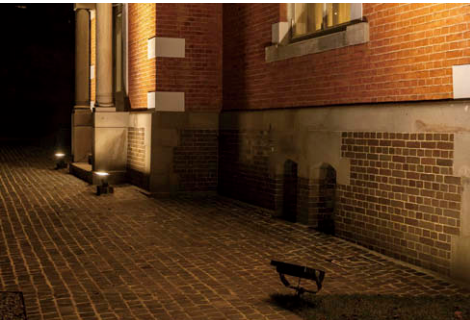
メインダイニング側のライトアップ風景



LED投光器 重耐塩タイプ 中角タイプ



メインダイニング側の器具設置状況



エントランス側の器具設置状況

主な掲載器具一覧					
設置場所	器 具 名（品名）		形 名	台数	備考
屋外	LED 投光器 重耐塩タイプ 中角タイプ		BVP431_130WWMB	9	定格消費電力:103.0W